

## 今月のみことば 2024年8月

ダビデはペリシテ人に言った。「おまえは、剣と投げ槍を持って私に向かって来るが、私は、おまえがそしたイスラエルの戦陣の神、万軍の主の御名によって、おまえに立ち向かう。」（サムエル記第一17章45節）

### 「9回裏2アウト」からの大逆転

8月の風物詩といえば、皆さんは何を思い浮かべるでしょうか。私にとっては甲子園野球です。私自身、少年野球をやっていたこともあり、夏休み中に甲子園野球をよく観戦していました。特に、9回裏2アウトから、負けていたチームが逆転勝利する試合が大好きでした。どんなに途中まで負けていても、最後の最後で勝つという試合にはハラハラドキドキしていた記憶があり、今もそういった試合を見ると興奮します。今年の甲子園でも、どんなドラマが生まれるのか楽しみです。

ところで、野球やスポーツだけでなく、戦いにおいても逆転勝利があります。聖書に描かれているイスラエルの歴史を振り返っても、逆転勝利の戦いがあります。

今から3千年前に、イスラエルとペリシテという国同士が戦っていました。ペリシテは青銅のかぶとによろい、すね当てを身に着け、青銅の投げ槍をもつ3m近くの長身ゴリヤテが代表戦士として向かってきます。一方、イスラエルはそのペリシテの戦士を見て非常に恐れて敗北必至という中、羊飼いをしている小さな少年ダビデが向かい出ます。誰が見てもダビデの負け、イスラエルの敗北が目に見えていました。大人と子どもが相撲を取ることを想像しても、どちらが勝つかは明白です。ましてや、石投げと5つの石が入った袋のみを携えた少年と青銅の武具を身に着けた3mもする筋骨隆々の戦士です。ダビデに勝機など全くありませんでした。しかし、ダビデは、石を1つ取り、持っていた石投げで放つとゴリヤテの額に命中し、一発で倒してしまうのでした。この出来事によって、ダビデの名と真の神の御名が広まっていったのです。



さて、このダビデとゴリヤテの戦いでダビデは大逆転勝利をしましたが、なぜ少年が勝つことができたのでしょうか。それはダビデがイスラエルの神、聖書が語る神に信頼を置いていたからです。ダビデは「イスラエルの名によって」ではなく「万軍の主の御名によって」立ち向かいました。そして、「これは主の戦いだ」と宣言して戦ったのです。真の神はご自身の戦いとしてくださり、ダビデを強め、圧倒的な勝利に導いてくださったのです。まるで、バッターが監督のサインをよく見て、「ここで打て」という監督采配によって見事ホームランを打って逆転勝利するような光景と重なります。

ところで、この監督(真の神)はイスラエルやダビデだけのお方ではありません。聖書は、神が人間を創造されたと明言しています。つまり、私たちの監督は神です。神は私たちのいのちの根源者です。その神は私たちにサインを送っておられます。「イエスを信じるのに遅すぎることはない」「今イエスを信じよ」と。イエス・キリストを救い主と信じるという神のサインに応答すれば、死に勝利し、永遠のいのちにあずかるという恵みが与えられます。野球でいう9回裏2アウトの人生であっても、起死回生の勝利の道、永遠のいのちの道があることを、聖書は示しています。神は今もあなたにサインを送り続けておられます。(M)